

様々な催しとホタル観賞

ホタルまつり実行委員会(会長・荒関壽一)が、7月11日(土)、12日(日)の2日間、ホタルを観賞しようと滝ノ沢砂防愛ランドで、ほたるまつりinなかどまりが開催されました。

中泊町合併10周年記念として行われた今年のホタルまつりは、2日間で約1200人の観賞者が集まりました。中でも初日は、地元小中学生や家族連れ、町外からも津軽鉄道のホタル列車に乗って142人の観賞者が訪れました。会場に用意されたテーブル・イスが足りなくなる程のにぎわいをみせました。

開会式では、荒関会長や来賓のあいさつに続いて、津軽鉄道(株)澤田社長から列車などで集まった募金をホタル育成に役立てていただきたいと、まつり実行委員会へ寄附しました。

このホタルまつりは、会場へシャトルバスで移動します。今年も中里高校のボランティアガイド12人と役場職員11人が会場までの移動中に、まつりの概要、ホタルの知識、注意点、町のイベント情報などを説明しました。

初日は、こども園園児やイメージキャラクターがダンスを披露し来場者を沸かせました。その後、会場を回りイメージキャラクターたちのシールを集める親子宝探しが行われ、子どもたちは好きなキャラクターのシールを集めていました。また、地元新聞店がまつりを盛り上げようと東奥日報キャラクター「福口ウ」と一緒に、来場者と抽選大会を行いました。2日目は鯉のつかみ取り体験が行われ、子どもたちの悲鳴や歓声が山中に響き渡りました。続いて、ホタル〇×クイズでは、バスガイドの説明がヒントとなっており、参加者はヒントを思い出しながらクイズに答えていました。

さらに、来年のホタルの幼虫のために餌となるカワニナの放流を行い、たくさん子どもたちが体験しました。最後にオカリナ演奏や詩の朗読が披露され、ここのよい音色が響き渡りました。

会場では、その日のオススメ品を用意して地元6店舗が参加しました。また、昨年に続いて、お茶の体験コーナーが設けられ、来場者をもてなしました。

ボランティアガイドを担当した高校生は「最初は緊張していたけど、乗客が喜んでくれたのが嬉しかった。また来年もボランティアにきたい」と話していました。

主役のホタルですが、湿気のある好条件で帰り道に飛び交う姿を見ることができました。雨の降った2日目にはより多くのホタルが飛んでいました。

ホタルまつり in なかどまり



お宝(シール)求めて長蛇の列



中里高校バスガイド



カワニナの放流



ホタル〇×クイズ



鯉のつかみ取り体験



会場は大賑わい